

平成30年12月20日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎  
 (コード番号：4572)  
 問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美  
 (TEL：078-302-7075)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年2月9日に公表した平成30年12月期通期（平成30年1月1日～平成30年12月31日）の連結業績予想を、下記の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 業績予想の修正内容

平成30年12月期通期業績予想の修正の内容（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	1,190	△679	△694	△758	△79.39円
今回修正予想 (B)	753	△1,136	△1,152	△1,204	△124.37円
増減額 (B-A)	△437	△457	△458	△446	
増減率 (%)	△36.8%	—	—	—	
(参考) 前期(平成29年12月期) 実績	657	△699	△711	△737	△78.53円

#### 2. 業績予想修正の理由

前回公表の連結業績予想において、創薬支援事業の売上高を750百万円、創薬事業の売上高を440百万円、全社で1,190百万円と計画しておりましたが、創薬支援事業の売上高予想を703百万円（前回公表予想比6.3%減）、創薬事業を50百万円（前回公表予想比88.6%減）、全社で753百万円（前回公表予想比36.8%減）に修正いたします。

売上高予想の修正内容について、セグメント別には以下の通りであります。まず、創薬事業におきましては、当社が開発しSierra Oncology, Inc.に導出したCDC7阻害剤SRA141（当社化合物番号：AS-141）が、本年第3四半期中に同社による米国FDAへのIND申請（新薬臨床試験開始届）が成功裏に完了しており、今後、フェーズ1試験において初めて被験者に投与された時点で、4百万ドル（約440百万円、1ドル110円換算）が当社に支払われることになっております。SRA141の大腸がんを対象疾患としたフェーズ1/2治験がまもなく開始される予定ですが、現時点において、当該マイルストーン収入の計上が来期に先送りされる可能性が高いと判断し、当社が2018年12月期の業績予想として予定していたSRA141の臨床試験開始に伴うマイルストーン4百万ドルの今年度内での売上計上を来期計上に修正することといたしました。さらに、本年3月、当社が研究を行ってきた精神神経疾患を対象とするキナーゼ阻害剤に関して、大日本住友製薬株式会社と共同研究ならびに開発および事業化に関する契約を締結し、

その契約に伴う一時金を2018年第2四半期に売上計上しております。以上をふまえ、その他の収益計上についても精査を行い、創薬事業の売上予想を50百万円に修正することといたしました。

つぎに、創薬支援事業の売上高については、対前期実績比45百万円増、対前回公表予想比47百万円減（対前期実績比6.9%増、前回公表予想比6.3%減）の703百万円を見込んでおります。地域別内訳としては、近時創薬研究の拠点として発展著しい中国において、当社の販売代理店である上海ユニバイオ社の貢献もあり、売上が急拡大したことから、対前回公表予想比27百万円増、対前期実績比41百万円増となる見込みです。さらに、欧州地域においても既存顧客への深耕を行い、堅調に売上が伸張しており、対前回公表予想比14百万円増、対前年同期比29百万円増を見込んでおります。また、主要市場である北米地域においては売上の拡大を目指し、戦略的に顧客アプローチを行い、新興バイオベンチャーならびにメガファーマを中心に売上を伸ばしており、前回公表予想を10百万円下回るものの、前期実績比では39百万円の売上増を見込んでおります。国内は主に小野薬品工業向けの売上が前期を下回ったことにより、前回公表予想比78百万円減、対前年実績比64百万円減となる見込みです。以上をふまえ、創薬支援事業における売上について、国内売上予想を対前期実績比18.2%減の288百万円（前回公表予想比21.4%減）、北米地域の売上予想を対前期実績比18.6%増の249百万円（前回公表予想比4.2%減）、欧州地域の売上予想を対前期実績比44.8%増の94百万円（前回公表予想比18.0%増）、その他地域の売上予想を対前期実績比142.1%増の70百万円（前回公表予想比62.8%増）といたしました。

つぎに営業損益についてですが、前回公表予想において、創薬支援事業の連結営業利益を150百万円、創薬事業については△829百万円、全社で△679百万円を予想しておりましたが、当期通期の営業損失は全社で1,136百万円となる見込みであります。セグメント別には、創薬支援事業において、上記の通り、前回公表予想比で売上が減少する見込みである点、ならびに新製品・サービスの開発および製品等の品質向上に関する研究開発を積極的に行ったこと等により、前回公表予想を30百万円下回る119百万円の営業利益（対前期実績比16.4%減、前回公表予想比20.5%減）といたしました。つぎに、創薬事業においては、売上高が大日本住友製薬株式会社との共同研究契約に係る一時金による収入により、前年実績比で50百万円増加する見込みであるものの、シエラ社からのマイルストーン収入が来期に先送りになる可能性が高いことや、着実に進展している当社の前臨床試験に積極的に資金を投じていることから、1,256百万円の営業損失となる見込みであります。

以上の結果に、営業外損益の影響を考慮し、経常損失は1,152百万円となる見込みであります。親会社株主に帰属する当期純損失については1,204百万円となる見込みであります。

今後も当社創薬パイプラインの価値最大化に向けて前臨床試験に積極的に資金を投じ、自社臨床試験の早期開始を目指してまいります。さらに化合物の最適化段階のものについても強力で研究を推進して早期のステージアップを目指してまいります。

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上